

2005年度の委員会活動

1. 委員会（全体会）
 - ・委員会全体として検討、確認すべき事項について議案を設定し、議論および合意を図る。
2. 分科会（グループ）活動・・・開催頻度1回／月（集合方式、又はeミーティング方式）
 - ・業種（製品）別に複数グループ編成を行い、リバーズロジスティクスの視点から、将来のあるべき循環型ビジネスモデルと、その実現課題の抽出と解決策について検討を行う。
 - ・委員会（全体会）では、各分科会グループより、検討経過（結果）について発表していただく。
 - ・発表内容については、委員会期日までに各分科会にてまとめ、事前に事務局までメール添付にてお送りいただく。
3. 勉強会
 - ・委員会（全体会）開催の際、委員会メンバーまたは外部から講師を招き、情報交流を行う。
4. 見学会
 - 3回程度／年 ※希望者を募って実施
 - ※見学に関わる費用（交通費等）は各自ご負担となります。

【2005年度委員会、分科会、勉強会、見学会開催（予定）】

	2005年									2006年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. リバーズロジスティクス 調査委員会	第10回 4/14(木)	第11回 5/27(金)		第12回 7/5(火)	第13回 8/30(火)		第14回 10/11(火)	第15回 11/25(金)		第16回 1/24(火)	第17回 2/24(金)	
2. 勉強会	第7回	第8回		第9回	第10回		第11回	第12回		第13回	第14回	
3. 分科会												
1) 家電・OA機器	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	
2) 自動車	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	
3) 食品	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	
4) 物流	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	
4. 見学会				※2004年度実施月				※2004年度月			※2004年度実施月	

※報告書完成 2005年12月（予定）

※第4回本会議 2006年 3月（予定）

以 上

ロジスティクス環境会議

第 11 回リバースロジスティクス調査委員会 議事録

I. 日 時：2005年5月27日（金） 14：00～17：30

II. 場 所：日本通運(株) 会議室

III. 出席者：25名

IV. 内 容：

- 1) 第7回勉強会
- 2) 第11回委員会（全体会）
- 3) 分科会

V. 開 会

定刻、菅田委員長による開会の挨拶がなされ、新規参加委員と代理委員の紹介が行われた。

VI. 第7回勉強会

以下のとおり、第7回勉強会が開催された。

「ITと物流」

流通経済大学 流通情報学部 教授 矢野 氏

VII. 第11回委員会・第7回分科会

1. 見学会について

2005年度の見学会の検討が行われ、以下のとおり候補日ならびに見学先が確定した。

なお、事務局にて見学先への依頼を進め、日程が確定次第、委員各位へ参加案内を送ることが確認された。（※現在、見学先候補へ依頼中）

1) 首都圏

見学先：パレット処理施設（東京ボード）

候補日：第1希望 6月23日（木）

第2希望 6月24日（金）

2) 地方

見学先：北海道（株）マテック・・・道内の鉄スクラップ最大手

※（参考）<http://homepage3.nifty.com/ariken/seibikai034.html>

自動車リサイクルの現実と課題—第10回：北海道における自動車解体業界の再編動向—

『月刊整備界』 36巻4号，2005年4月，pp. 28-31

時期は未定、今後検討を行う。

2. 各分科会の活動経過について

各分科会より、資料に基づき、調査テーマに関する検討内容について報告がなされた。

(1) 家電・OA機器分科会

- ① 2004年度活動の結果、リバースロジスティクス共通プラットフォーム提案を行った。
- ② この提案をより具体化し実現するために、活動テーマをさらに絞込み、「リバースロジスティクス共通プラットフォーム実現推進に向けた体制の提言」と「共同化に向けた実態調査と課題抽出」などを行う。
- ③ ロジスティクス環境会議の席で、企画運営委員会からロジスティクス環境会議メンバー各社に対して「リバースロジスティクスの共通プラットフォーム構築の着手」が提案された。
さらに、「関係データの提供ならびにヒアリングなどの調査協力要請」が行われ、「リバースロジスティクス共通プラットフォーム構築」がメンバー共通の課題として認識し、この提案を受けての活動とする。
- ④ しかし、活動できる時間的な制約（今年中の報告書作成）、メンバーの工数面での制約（各メンバーが各社でそれぞれ重要な立場に就いており、手弁当での活動にも制約がある）などがあり、実現に向けた具体的な提言まではかなり困難であると認識した。
したがって、実現に向けて取り組むための体制提言と課題実態調査に絞り込む。
- ⑤ すでに実施されている廃家電4商品については、対象製品の拡大も検討されていると聞いており、その状況を把握していく必要性を確認し、状況把握を行っていく。

(2) 自動車分科会

① リサイクル自動車部品

- ・自動車メーカーへのリサイクル部品販売状況ヒアリング実施（トヨタ自動車㈱）
→ リサイクル部品販売ネットワーク（NGP, ビックウェブ）と連携するも仕入低調
他社動向（日産, ホンダ）も含め、取り組みは以外に消極的
- ・一般消費者ニーズも含めて考えると、少し手詰まり状態（新たな発想要）

② 廃棄タイヤ

- ・タイヤメーカーへのリサイクル状況ヒアリング実施（㈱ブリヂストン）
→ 4/27：全体概要、廃タイヤリサイクルの現状
5/25：廃タイヤリサイクルの課題と方向（メーカー 他, 行政 等）
（不法投棄の削減, 更生タイヤの使用 等の再利用促進の仕組み創り 他）
- ・今後の対応
→ 処理工場の見学と課題整理（処理する側から見た）
廃タイヤの回収率 up、再利用率 up に向けた課題と対応個所の整理

(3) 食品分科会

■ 目標テーマの再確認

食品再生利用率の向上を目指す提言として再度食品廃棄物全体を見つめなおす。

- ① メーカー・卸・小売等業種別の廃棄物実態の調査を行う
- ② 業種別再生利用の最先端の事例調査
- ③ 課題の抽出と解決策の検討
- ④ 再生利用の取組のためのマニュアルと事例集の作成
- ⑤ 消費者の視点の提言はできないか

■ 2004年度取組課題の深堀

返品物流の共同回収プラットフォームの事業化モデルの構築を通じて、現状の処理技術の調査と課題を浮き彫りにしていく

- ① 関東圏における加工食品返品実態調査

- ②再生処理施設の実態調査
- ③再生処理施設の能力の確認による、共同プラットフォームの仕様・機能検討
- ④事業化の投資効果推定による評価
- ⑤事業モデル提案（グリーン物流パートナーシップ会議へ）

■スケジュール化を行う

(4) 物流分科会

■5月13日、東京路線協議会の木パレットリサイクルを行なっている、横浜市金沢区鳥浜町の万世リサイクルを見学

- ①一般廃棄物と産廃の中間処理免許を取得している例外的処理業者
- ②東京路線協議会の会員を週二回巡回し、廃棄パレットを回収リサイクル
- ③東京路線協議会の木パレットは、産廃として処理している
- ④一般廃棄物のパレットも、横浜市に事前了解を得てもらえれば、他の都県からも、受入できる。
- ⑤従前は、北海道の王子製紙まで運送し、紙チップ・燃料チップとしてリサイクルしていたが、燃料高騰のおり、静岡の製紙工場にシフトしている

■5月10日、宅配容器リターナブル化検討会を新宿にて実施

[既存の宅配プロセスと異なる仕組みを想定する]

- ①容器の条件： ・安価 ・作業性向上 ・緩衝材不要・回収時の容積減
- ②容器の付加価値： R F I Dの活用（コストアップをカバーしたい＝積載確認、検品、物流ステータスなど。但し、当初はバーコードとR F I Dが共存が必要か）
- ③具体的な [B s t o B（大きなリテール）] でモデルを想定し、実証実験（政府助成金取得）をしてみたい（問題点を抽出し課題を検討する。環境会議参加企業から候補を出してもらおう）
 - 回収も配達業者がやる方が単純なプロセス ○「清掃」は、「水洗い」「拭く」。当初は「拭く」だけで良いモデルでスタートしても良いか
 - コストの試算（瓶商・P箱レンタル例（仕組み・価格等）を確認）
 - L C Aの計算をしておく必要あり

■5月25日、日本I B Mロジスティクス(株)を見学

量販店との通い箱の状況・課題・工夫などの情報を収集

3. 今後のスケジュールについて

第12回リバーシロジスティクス調査委員会

■日時：2005年7月5日（火）14：00～17：30

■会場：貿易センタービル 東京會館39階 「オリオン」

第8回勉強会

■講演者：イオン(株)、(株)オカムラ物流

VIII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、菅田委員長は閉会を宣した。

以上

リバースロジスティクス調査委員会 分科会の活動状況

分科会名	家電・OA機器分科会
------	------------


1. 調査テーマ（品目等）

- ・ 第一次回収拠点から回収集約拠点までの回収物流共同化推進のための体制提案
- ・ 提案に必要なデータ収集のための調査活動（実態調査、各社の期待や要望調査など）
- ・ 調査結果の分析と提案書への反映


2. 調査テーマ等の検討経緯、課題など

- ・ 27日の分科会で活動テーマを議論し、上記の活動案で取り組むこととした
- ・ 6月16日の分科会までに、各メンバーで作業を分担した（宿題）
- ・ 6月16日には、坂弥様から「物流共同化プラットフォーム」について詳細な説明を頂き、石渡様から「情報システムという視点での共同化の姿」の説明を頂き、メンバー各社の認識共有を図った（共有化できたと判断している）
- ・ 坂弥様からの詳細な説明は、すでに先進的に取り組まれている複写機業界を念頭に置いたものであり、複写機以外の回収貨物を取り扱うことで物流共同化が進むのではないかという意見が分科会では多数であった
- ・ しかしながら、解決すべき課題が多くあり、今年度の分科会では「共同化を推進するための体制のあり方を提案する」までの活動にならざるを得ないと考えている
- ・ 次回（7月5日）の調査委員会までに各メンバーが与えられた宿題をやって持ち寄り、当日の分科会で議論を進める予定
- ・ 宿題は
 - 物流共同化プラットフォーム実現の具体的課題の洗い出し
 - 企業にお願いする調査の進め方などの案作成
- ・ なお、報告書作成に向けての2005年度の活動計画を策定し、これを必要都度更新しながら活動を進めることにしている

以 上



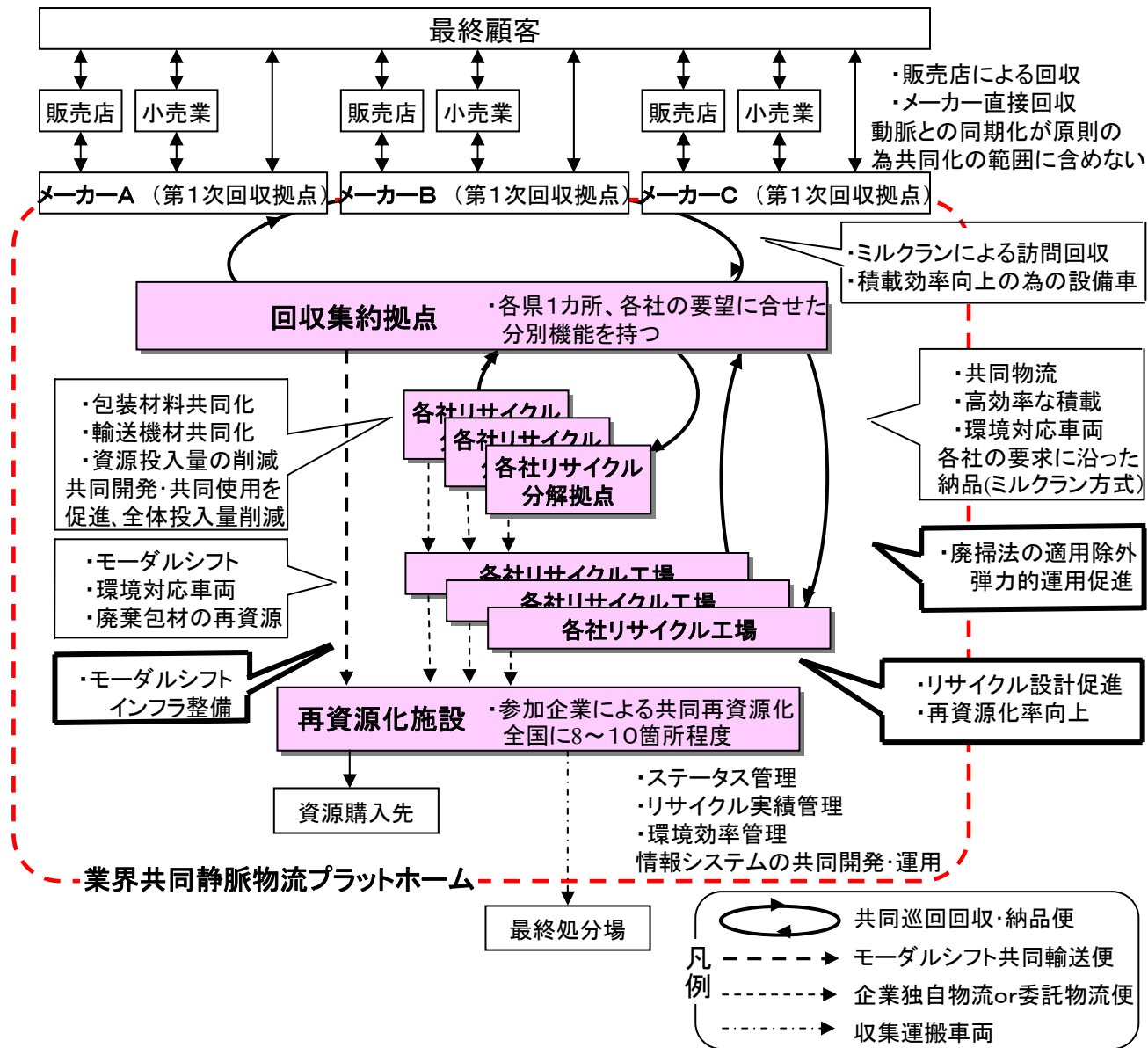
業界共同静脈物流プラットフォーム
共通認識のための説明書



作成 : 2005.06.16 (木)

リバースロジスティクス調査委員会
家電・OA機器分科会

【 あるべき姿イメージ 】

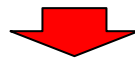


2、各社拠点からの回収物流イメージ

- 前提：1、メーカー・販売店等が顧客から回収した段階以降の物流を対象とする。ただし、参加企業が望めば同一物流業者が顧客からの回収段階を担当する事を妨げるものではない(動静脈一体型物流構造)
- 2、対象物は参加企業が取り扱う全ての製品(機械・付属品・消耗品・部品・販促材料・梱包材料等)とする。
- 3、参加企業の指定した拠点に対し訪問回収(ミルクラン)を行う事を原則とするが、参加企業の希望により集約拠点への持ち込みも可能とする。
- 4、回収対象拠点は、倉庫・店舗・事務所のいずれも指定可能とする。

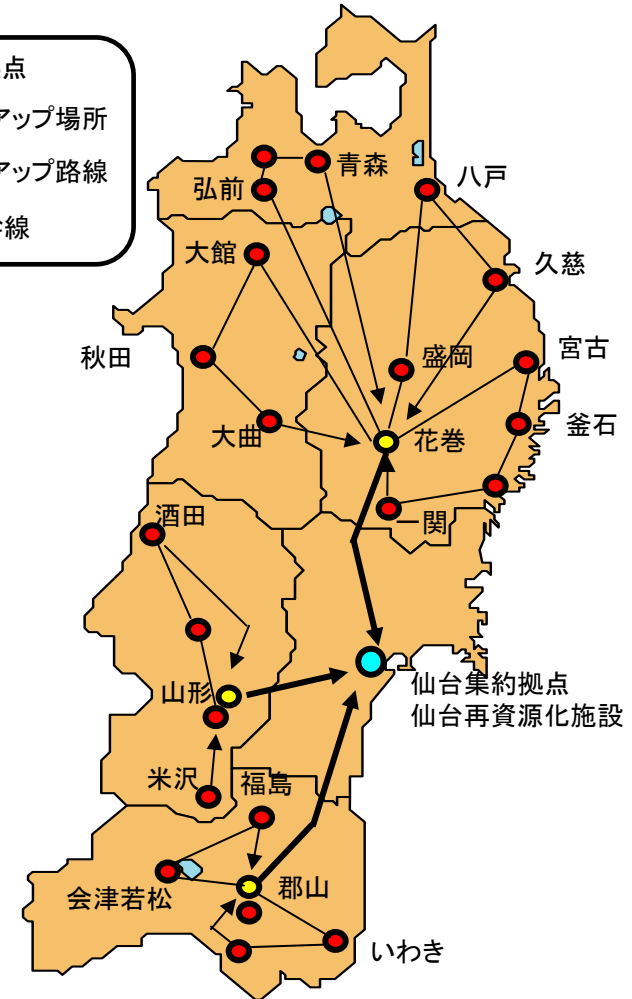
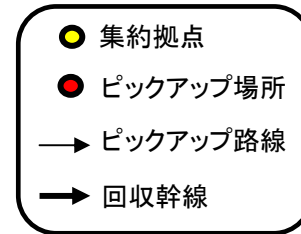
- 概要：1、参加企業より対象製品の概要と回収希望拠点の情報を得て、回収先分布と凡その量を把握する。
- 2、所在地・発生量・製品特性等を勘案し、回収ルート・訪問タイミング(案)を作成し運行スケジュール表を参加企業と合意する。
- 3、製品の受渡しに関して事務手続きを作成し、参加企業・物流会社の現場サイドへの周知を図る
- 4、製品の行先は同一企業で複数ある事を前提に行先別に情報が仕分できることが必要である
- 5、訪問回収は9:00~17:00が原則であるが地域・業態の特性などにより独自のルールを定める事は妨げない。

	岩手北ルート			岩手南ルート				
	八戸	盛岡	久慈	宮古	釜石	高田	一関	花巻
A社	月金	毎日	水	—	—	火金	火金	月水金
B社	火木	月水金	—	月木	月木	火金	火金	—
C社	月金	毎日	水	—	—	火金	—	月水金
D社	—	月金	水	—	—	火金	火金	月水金
E社	火木	火木	水	月木	月木	火金	—	—
F社	—	水	水	月木	月木	—	火金	月水金



岩手北ルート	月曜日 運行表
花巻発	8:00
→盛岡(A社・B社・C社・D社)	9:00 9:30 10:00 10:30
→八戸(A社・C社)	14:00 14:30
→花巻着	18:00

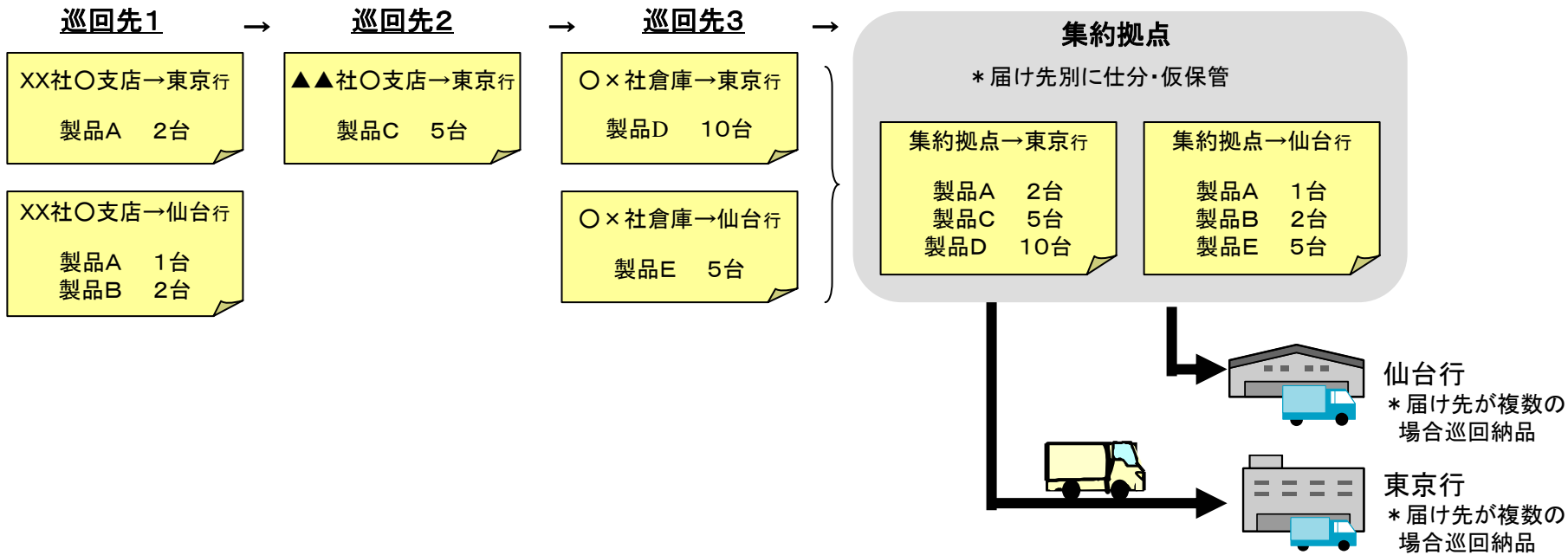
東北共同回収輸送イメージ(例)



3、集約拠点業務イメージ

- 前提: 1、集約拠点は参加企業から回収した製品を参加企業の要求に沿って指定された届け先まで、輸送を滞りなく実行する事を目的とする。
 2、業務は極力シンプルにする事を目的に、受入れ製品の確認と輸送手配のみを行うものとし、参加企業ごとの扱い量により課金をおこなう。
 3、参加企業の要望により上記以外の業務を付加したいときには、両者の話し合いにより業務を付加させることができる。料金は上記以外に付加料金として支払うが、その情報は参加企業にオープンにされ、類似の業務は参加企業全てに同一の条件で提供される。
 4、届け先によっては収集運搬の許可車両である事が必要なケースもあるため、認可を受けた業者である事が前提となる。

- 概要: 1、集約拠点では前ページの運行予定表に則り、回収車を仕立てて指定された回収場所を巡回し、参加企業の製品を回収する。
 2、事前に回収予定先の在庫を確認し、回収製品が無い時や極端に少ない時などは調整を行えるようにする事が効率面から望ましい。
 3、回収製品の内、小型・バラ製品・個装収納箱が無いものなどが想定されるので、それらの回収のためにリターナブルな通函的な包材を用意し各社に貸与・運用する(包装材料の共同化・投入資源量の削減)ただし箱の内容物は同一届け先のもののみとする。
 4、各社から回収する際には、製品名・数量・届け先などを明記している「共通伝票」を受取り、内容を確認の上、受領印(確認印)を押印した片辺を出荷元担当者に渡してくる。(通函などに複数混入しているものについては、その明細を通函に入っていることが判るように記載した伝票を作成し通函に添付するなどの対応が必要)
 5、届け先が異なる製品については届け先を明記した「札」を製品に添付しておき、届け先の間違いを未然防止する。
 6、回収された各社製品は、届け先の地区別に仕分け・仮保管し、車両の積載能力にしたがって満車条件で配車計画を立案する。



4、集約拠点からの共同輸送イメージ

前提：1、集約拠点から輸送される「届け先」は基本的に下記の3種類が想定される

- a)、自社の工場など生産関連施設で解体・部品抜き取り・筐体をそのまま活用するリユースなどに活用されるケース
 - b)、自社の倉庫など物流関連施設で自社の他の回収製品などと合流させて次工程へ流すケース
 - c)、契約先である中間処理業者の施設で再資源化のための解体・仕分・熱処理などを行うケース
- 2、輸送する製品はその特性により下記の2種類が想定される。
- a)、営業行為の対象物となる「有価物」……通常の輸送行為
 - b)、廃棄物として処分を委託されたモノ、または自社で発生した廃棄物として処分が必要な「無価物」……廃掃法上、収集運搬の適用が必要
- 3、輸送手段は極力、環境に優しい手段を選択する(鉄道・内航船など)
- 4、費用は輸送実績に応じて按分(もしくは予め単価設定)を行う
- 5、収集運搬に該当する輸送に際してはマニフェストの代理発行機能を具備する(付帯業務として参加企業別に契約を行う)

概要：1、集約拠点に集められた各社の製品を、届け先別・特性別に仕分け分類し、輸送計画を立案し、輸送手段をアサインする。

- 2、出荷予定日を対象参加企業と対象届け先に連絡を行う(基本的に日付・曜日・時間の指定は受け付けない)
- 3、輸送に当たっては「共通伝票」を作成し、受領確認印を受ける事が必要である。

再資源化業務の共同化

再資源化業務を各企業が独自に展開している事が全体の効率化を阻害している要因にもなっている。地域に適正な再資源が可能な業者は多くはないので、共同化が計れば輸送など多くの面で効率化が計れる。

その際、留意しなければならない事は以下の点である。

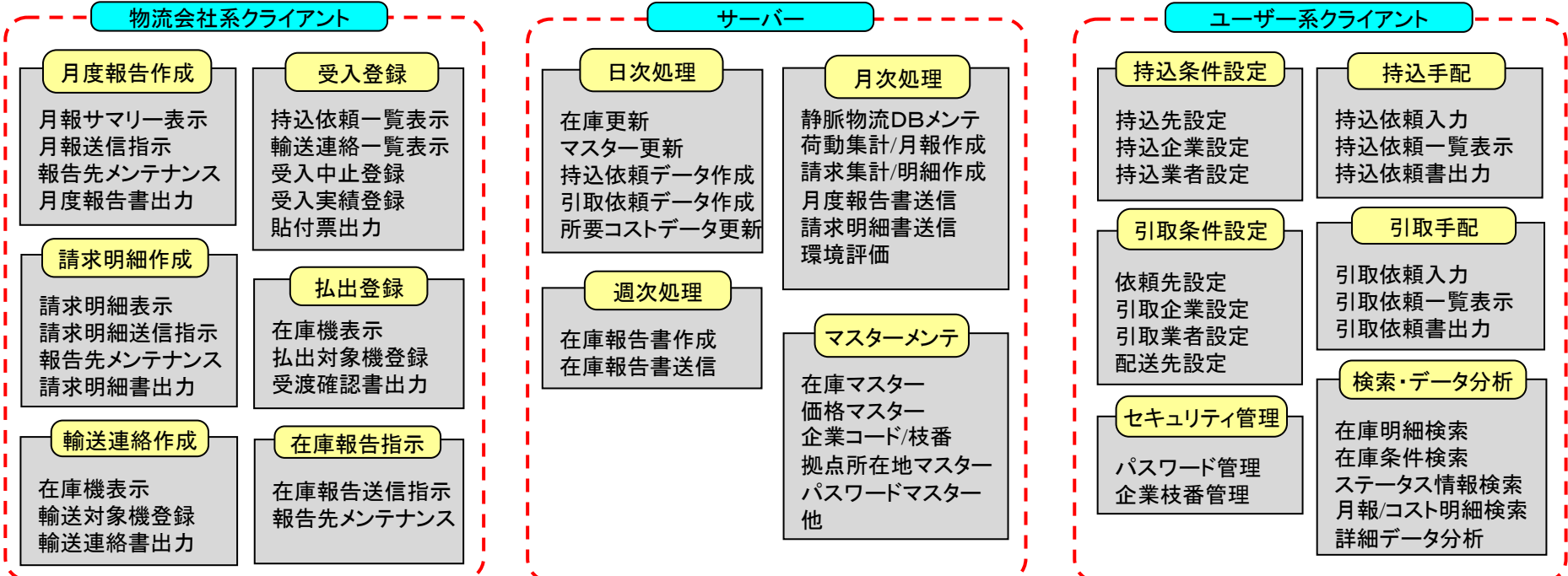
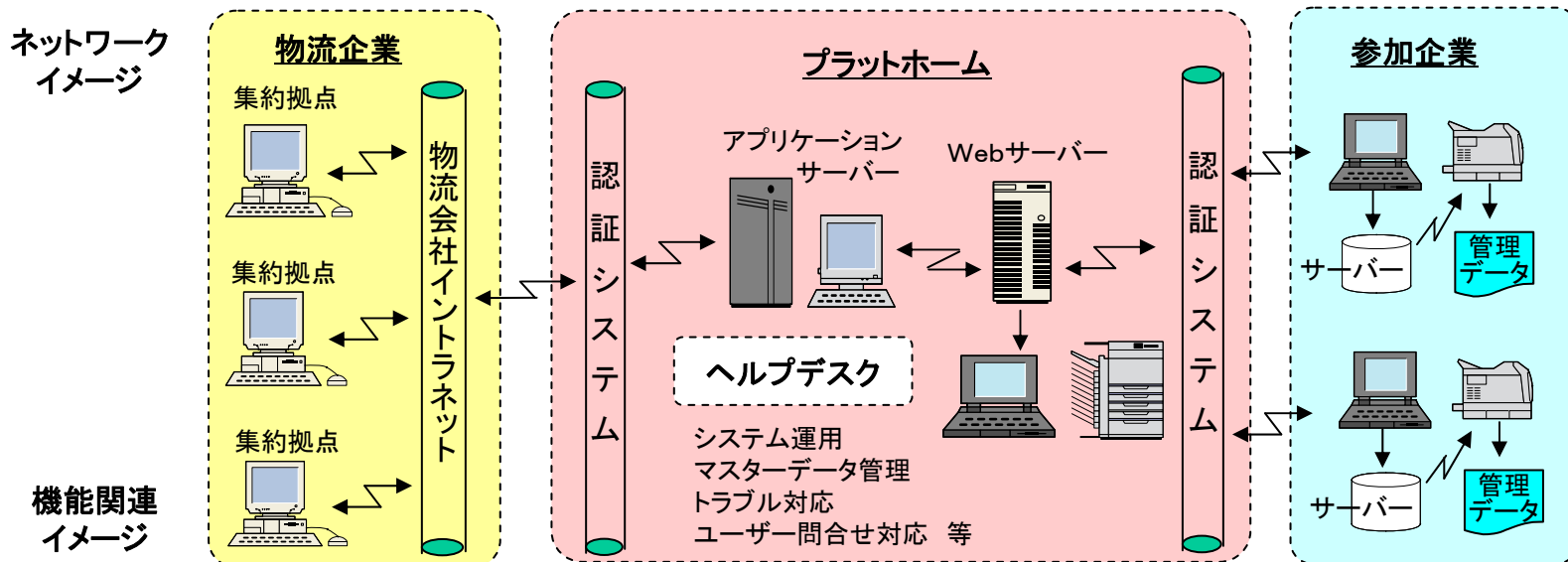
- 1)、分解・分別レベルを統一する(実現リサイクル率の統合、リサイクル定義の統合など参加企業が独自の工程を極力排除する事が必要)
- 2)、報告様式・報告情報項目などの統一
- 3)、再資源化費用および素材化されたものの処理費用(有償・逆有償を含めて)などの統一化(企業の個別の交渉・価格設定を排除)
- 4)、家電などのグループ分けを企業単位から地域単位に組みなおす事が可能になれば業界をまたがった共同化も可能(OA機器と家電は同じ企業グループに属している会社が多く、共同化を進めにくい要因ともなっている)

梱包資材のリサイクル業務の共同化

木製パレット・ダンボール・発泡スチロールなど包材の関する再資源化・修理/再使用・廃棄などに関しては各企業が独自に実行しており、効率は高くはないこの分野も共同化が計れば、コスト的にも資源投入量に関しても多くの改善余地を有している。(再資源化のみならず包材の共同使用という視点から取り組めれば再資源化も自ずと共同化を余儀なくされる)

- 1)、製品強度レベルの統一化(ある幅を持った統一化が必要)
- 2)、汎用的な包材の開発と個包装と集合包装の切り分けに関する基本方針を策定する事が必要
- 3)、再資源化処理を行う前段階の輸送などに関し、廃掃法の適用の弾力的運用が必要

5、最低限必要と思われる情報イメージ



6、プラットフォーム構築を検討する段階での課題

- ・どのような枠組みで検討を開始したらよいか→「同業者」に絞るか「異業種」を巻き込むか
- ・検討の主体を何処に置くか→省庁・JILS・業界団体・参加企業合同プロジェクト
- ・誰をメンバーとするか→扱い製品により事業主体が異なり一つの部門(人)が企業を代表できない
- ・検討に際しては、ほぼ専任体制で進める事が必要となると想定されるが、企業間プロジェクトが成立するか
- ・企業間の利害調整をどのように進めるか→第三者機関の関与
- ・参加に関する各企業TOPの強い意志と担当部門への的確な指示が必要→どのようにTOPを説得するか
- ・目的・コンセプトの整理(経済性・環境対応・公益性……)
- ・廃掃法・独禁法など関連法規との裏付けをどのように確認していくか
- ・担当する物流業者(単独企業・複合体)をどのように決めていくか→公明性・公平性
- ・プロジェクトオフィスの設置・専任/非専任の検討メンバー・運営費用・ステアリングボード等をどうするか

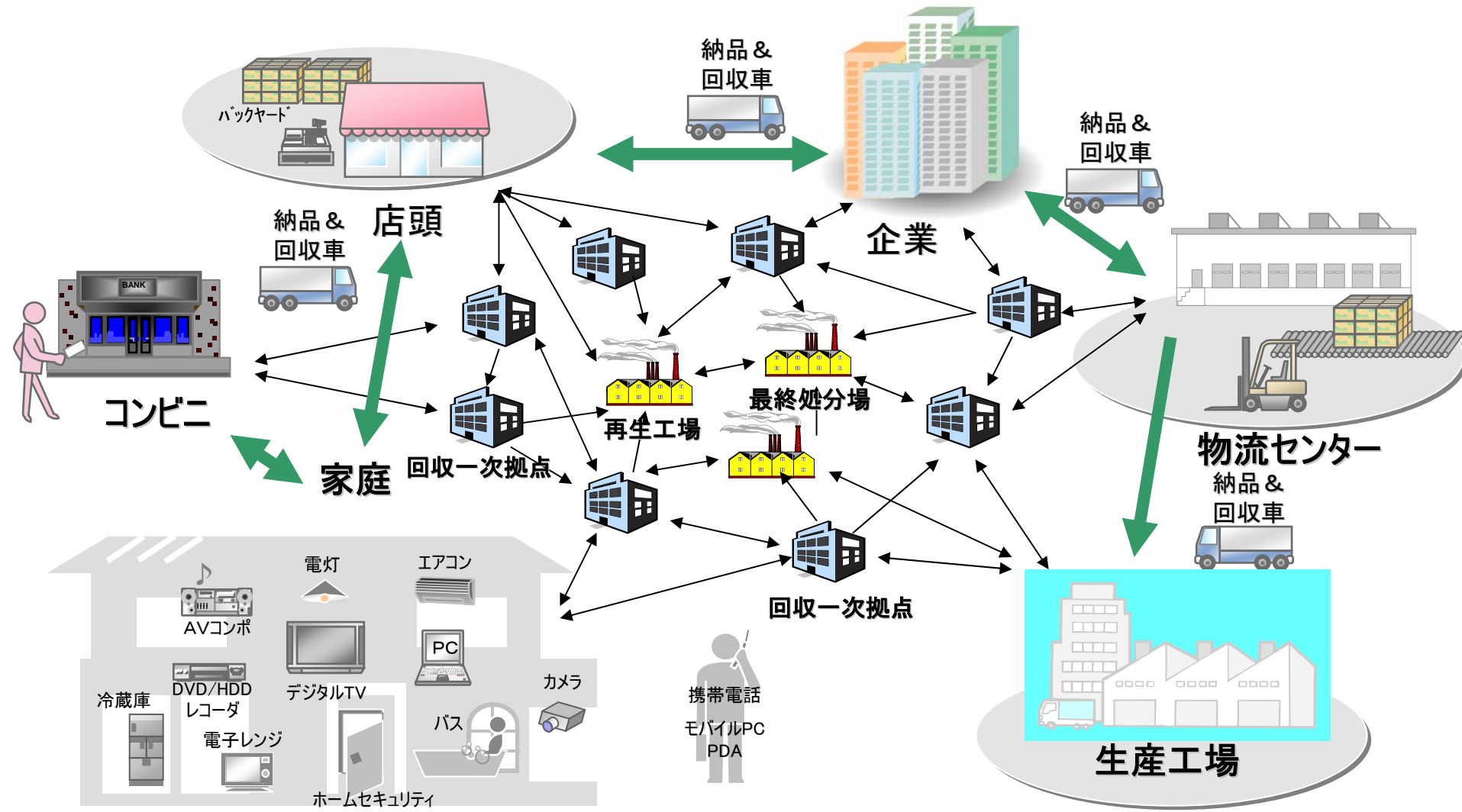
7、プラットフォームを成立させるに当たりの課題

- ・取扱い製品の範囲→一つの企業が扱う製品で共同物流対象製品と非対象製品が混在しては対応が複雑になり、参加を促せない。
- ・既存業者への保証→既存業者は中小企業が多く、大企業が共同化に走ると既存業者へのインパクトが大きい
また、企業の物流子会社との関係をどのように整理するか(利益構造に変化)
- ・適正コストの算出→
- ・法の弾力的運用→静脈は回収物を扱うので解釈により「廃棄物」と「有価物」が混在(企業により見解に相違)
- ・プラットフォームの客観性確保→どの企業にも属さない、影響力の排除、公正性の確保・・・組織形態 ???
- ・現行の共同体(例-家電四品の共同回収・複写機の交換システムなど)を発展的に解消できるか
- ・国の指導力をどのような形で何処まで発揮できるか

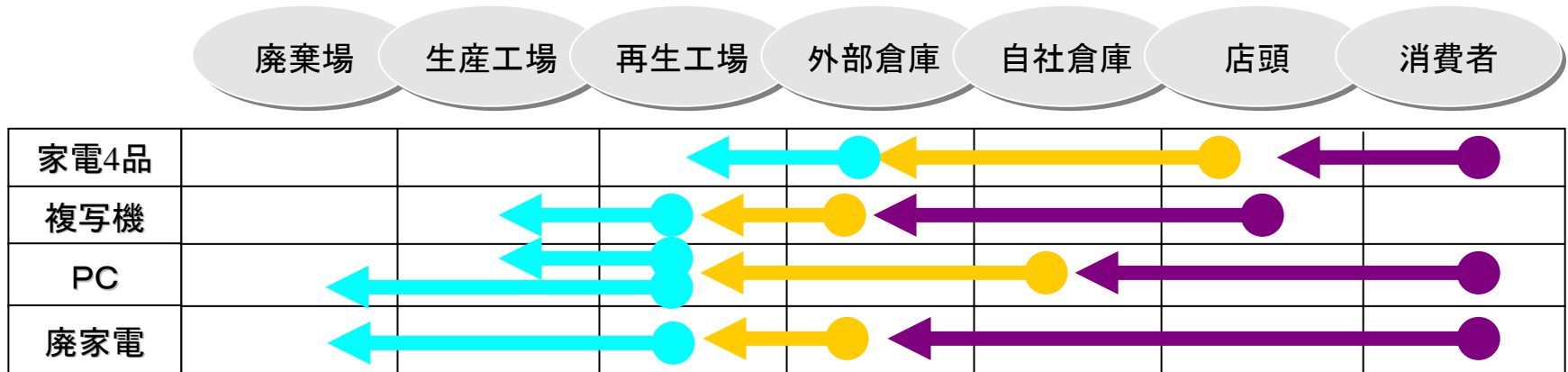
共同を実現する将来の 統合情報システムのイメージ

情報システム編

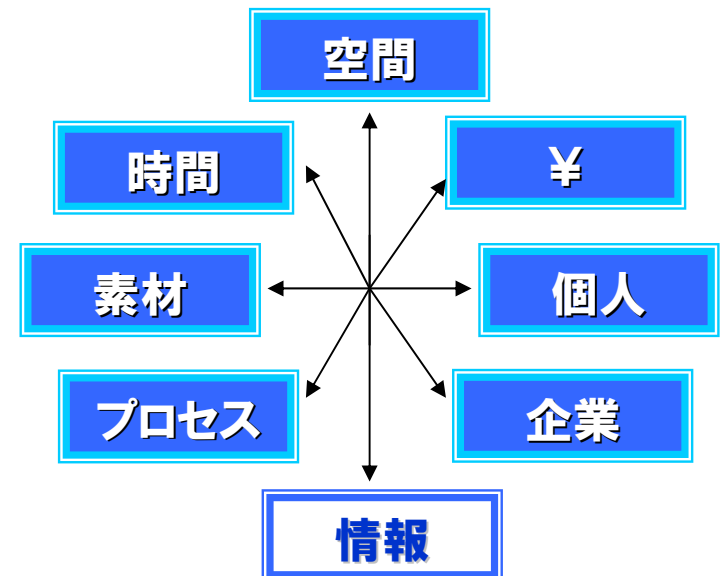
家電・OA機器の静脈物流 – 現状(個別情報交換)



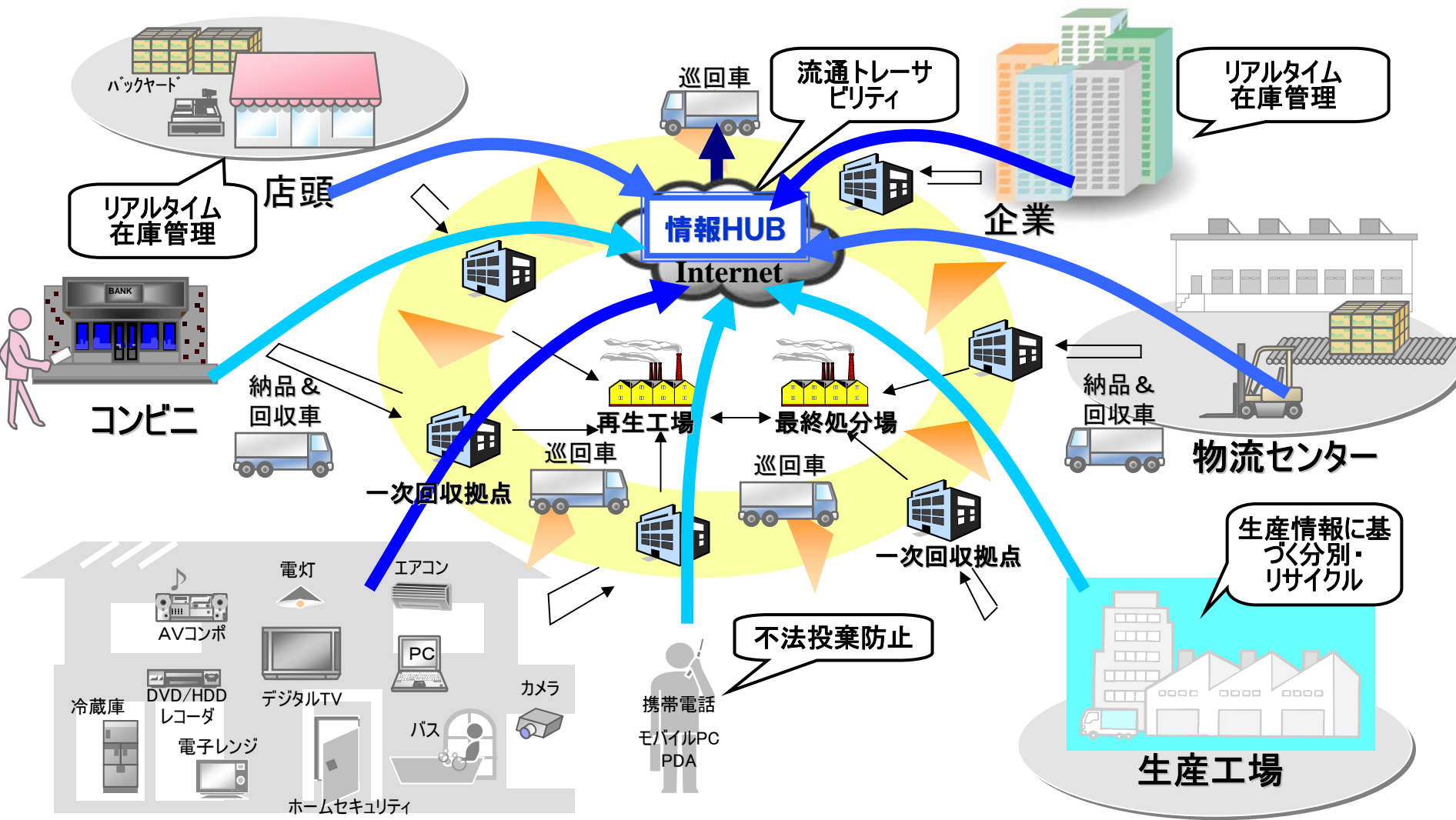
独自の回収物流 — 原因



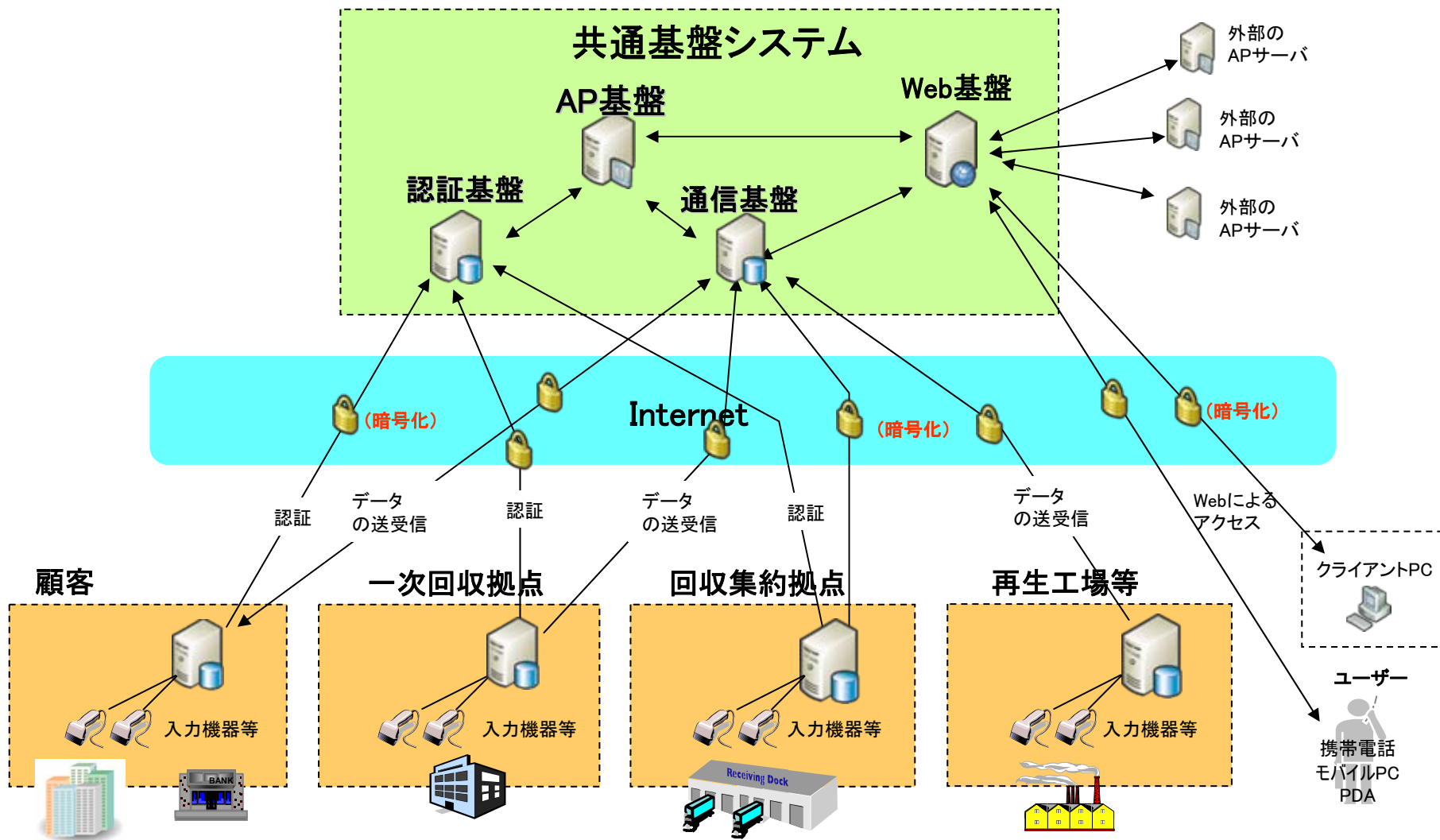
- 場所の違い
- 荷姿の違い
- 物量の違い
- 商品価値の違い
- 回収頻度の違い
- Playerの違い
- キャッシュフローの違い
- 情報の違い



家電・OA機器の静脈物流 – 将来(情報の集中&配信)



基盤システム イメージ



ロジスティクス環境会議 リバース・ロジスティクス調査委員会

自動車分科会 自動車リユース部品チーム

1. 目的と方針
2. 自動車中古部品利用の流れ(想定イメージ)
3. 課題の整理
4. 進め方

1. 目的と方針

(1) 目的

自動車リユース部品の利用率を高めるための課題を整理し、関係する企業や組織への提言をまとめる。

(2) 方針

昨年度の活動より、次のような諸点に課題のあることが分かった。

リユース部品の品質(信頼性)

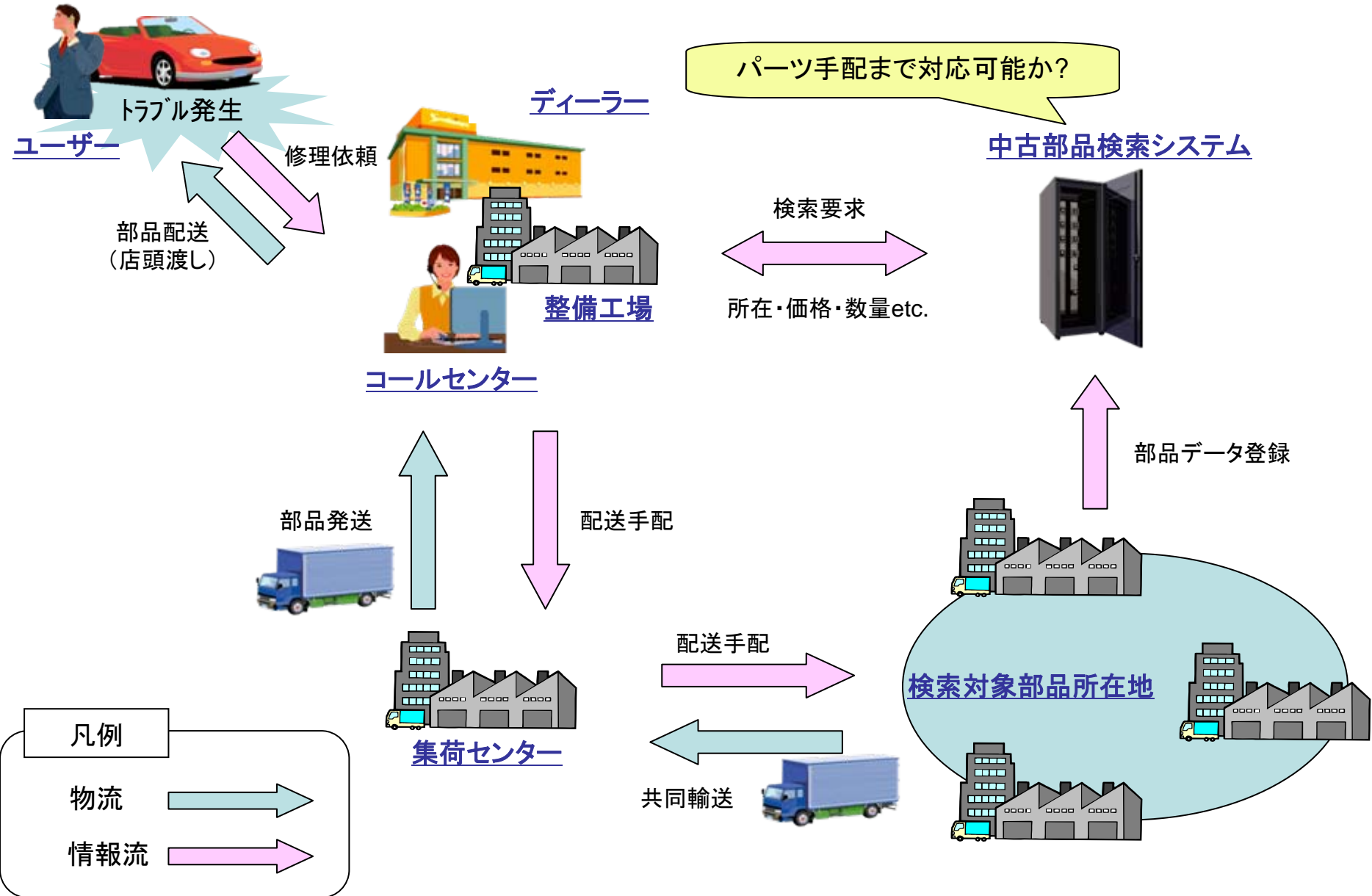
消費者認知度の向上

リユース部品の商流と物流

リユース部品の在庫情報ネットワーク

今年度はそれぞれの課題をより具体的に把握するため、自動車メーカーなど関係する企業や業界団体へのインタビュー調査を実施する。

2. 自動車中古部品利用の流れ(想定イメージ)



3. 課題の整理

品質	<ul style="list-style-type: none">・品質保証はどのように確保するか・対象部品の絞り込み	見つからない・入手までに時間が掛かる
マーケット (消費者認知)	<ul style="list-style-type: none">・修理受付時のレコメンド徹底(ユーザーに選択肢を示す)・魅力のある料金体系、品質の確保・在庫の確保(探しても全然みつからないのでは魅力なし)	
物流	<ul style="list-style-type: none">・共同輸配送の可能性・集荷センターの設置可否(直送は困難?)	WIN・WINの関係が構築できること
商流	<ul style="list-style-type: none">・金流の整理(各プレイヤーにとってビジネスになること)・部品検索コールセンターの設置可否	
情報システム	<ul style="list-style-type: none">・誰が運営するか・利用料金体系・検索容易性、精度を如何に確保するか(部品等データのコード化)・ユーザーが直接検索可能な仕組(ヘビーユーザーを想定)の検討	
その他	<ul style="list-style-type: none">・自動車メーカー等各プレイヤーの協力体制確保(中古部品取扱いのアウトソーシング的イメージ)・損保業界等、周辺業界における推進体制(修理費の保険料算定への反映)	

4. 進め方

タスク	内 容	時期
方針決定	<ul style="list-style-type: none"> ・進め方の決定 ・インタビュー先の検討 ・ゴール(落としどころ)の見極め ・インタビュー準備 等 	6月
インタビュー (phase1)	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー実施～結果まとめ 	6下旬-7月末
課題抽出 対策立案	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車分科会にて取り組むべきテーマの絞込み ・テーマに対する対策の立案(仮説) ・最終報告に向けた資料のドラフト作成 	9月-10月末
インタビュー (phase2)	<ul style="list-style-type: none"> ・対策仮説に対する意見交換～対策案のブラッシュアップ ※実施するのかが要検討 	10月一杯
報告書作成	<ul style="list-style-type: none"> ・最終報告書作成～最終報告 	11月一杯

(インタビュー候補先)

自動車メーカー ……
販売ネットワーク ……
関連団体 ……

トヨタ自動車、日産自動車、本田技研
NGP、ビッグウェーブ、豊田通商(エコライン)
日本自動車工業会、日本損保協会

廃棄タイヤリサイクル化促進の進め方について

資料 1 - 2
2005. 7. 5

H17.7.5
自動車分科会

1. 現状のリサイクル実態(2004年)

	利用量 (万T/Y)	構成比 (%)	備考(構成比の内訳)
リユース	5.8	5	更生台タイヤ(3)、その他(2)
マテリアルリサイクル	19.6	19	再生ゴム・ゴム粉(12)、セメント原料(4)、製鉄用還元剤・原料(2)、ガス化炉(1)
海外輸出	27.0	26	
中計	52.4	50	
サーマルリサイクル	39.2	38	セメント焼成用(16)、製紙(12)、製鉄(3)、タイヤメーカー工場(3)、中小ボイラー(2)、金属精錬(1)、化学工場等での発電(1)
合計	91.6	88	

他 12%については、埋め立て・流通在庫 等

2. 現状の課題

- ・リサイクル未実施の12%の低減 : 不法投棄 等、定常ルートから外れる商流の低減
- ・リサイクル内訳の改善 : サーマルリサイクル → リユース、マテリアルリサイクルへの移行
(メーカーによる技術開発、リユース拡大に向けた行政による仕組み作り 等)
- ・タイヤは安全に直結する事から、ユーザーニーズに乏しい : リユースタイヤの品質保証、優遇措置 等

3. 今後の進め方

- ① **不法投棄 等の非定常ルートの低減** : 指定店(タイヤ販売会社、販売店 等)への処理委託の拡大
(その為の法整備化:自動車リサイクル法の対象拡大、資源有効利用促進法の対象製品化 等)
トレーサビリティの可能性検討(ICチップ化 等)
- ② **リユース品 等の使用拡大** : グリーン購入法の見直し=対象拡大(現状は、国等の各機関に限定して、委託更生を対象に「役務」の項目で指定)
リユース品の品質保証制度の確立、(単価、保険 等)の優遇措置(税制)の実施
メーカーによる技術開発の推進(タイヤ業界全体としての取り組み強化)

4. 今後のスケジュール

- ・H17/7~9: 上記3.の現状実態調査(必要に応じて、タイヤメーカー・中間処理業者 等の見学・ヒアリングを実施する)
 - ①他タイヤメーカーの環境報告書の入手(新たな視点の探求):横浜ゴム、住友ゴム、東洋ゴム、ミシュラン、コンチネンタル
 - 各社の3Rの考え方、実施状況と今後の方向(メールにて質問予定)。ミシュランについては、本国での対応も整理したい
 - ②ブリジストンへの再ヒアリング(法改正関連、指定店での処理拡大対策、品質保証、技術開発 等)、メーカー主導の取り組み化促進
 - ③中間処理会社の見学(処理拡大に向けた現場意見の収集)
- ・H17/10~11/中: 全体取り纏め(タイヤメーカー、JATMA 等への事前確認を含む)

以上

リバースロジスティクス調査委員会
分科会の活動状況

分科会名	2005年7月5日食品分科会
------	----------------

1. 調査テーマ（品目等）

6月14日実施報告

- ① 返品商品に限らず、食品廃棄物の再生利用率向上のため実態再調査をおこなう。
(ア) 現状の処理の実態から課題と解決・普及策を検討する。
(イ) 訪問調査の前にアンケート調査実施できないか。
- ② 共同プラットフォームの構築を目指し事業化モデルの提案を行なう。
(ア) グリーン物流パートナーシップ会議の事業として提案。
(イ) 廃棄油の回収について検討する。(テーマとして扱うか)

2. 調査テーマ等の検討経緯、課題など

★目標テーマの再確認

食品再生利用率の向上を目指す提言として再度食品廃棄物全体を見つめなおす。

- ① メーカー・卸・小売等業種別の廃棄物実態の調査をアンケート形式で行う。
- ② JILS の会員を通じて、アンケート配布、回収を行なえるか検討。
- ② 業種別再生利用の最先端の事例調査によりデータベースの構築を行なう。
- ③ 課題の再抽出と解決策の検討を行なう。
- ④ 再生利用の取組のためのマニュアルと事例集の作成を行なう。

★2004年度取組課題の深堀

返品物流の共同回収プラットフォームの事業化モデルの構築を通じて
現状の処理技術の調査と課題を浮き彫りにしていく、このまま継続する。

- ① 関東圏における加工食品返品実態調査
- ② 再生処理施設の実態調査
- ③ 再生処理施設の能力の確認による、共同プラットフォームの仕様・機能検討
- ④ 事業化の投資効果推定による評価
- ⑤ 事業モデル提案（グリーン物流パートナーシップ会議へ）

★アンケート素案提案

2005年6月14日の分科会実施

2005年7月5日の会議でアンケート内容を確認。

以上

リバースロジスティクス調査委員会
分科会の活動状況

分科会名	物流分科会
------	-------

1. 調査テーマ（品目等）
- (1) 木パレット関連
 - (2) 宅配リターナブル関連

2. 調査テーマ等の検討経緯、課題など

(1) 木パレット

一般廃棄物と産業廃棄物、及び、「みなし産廃」の各自治体解釈の相違・矛盾がある程度明確になりつつある。

- ① 6月16日 : 東京路線トラック協議会事務局訪問
- ② 6月23日 : 東京ボード工業(株) 新木場工場(リサイクリング工場)
- ③ 7月 5日 : 東京路線トラック協議会報告書の日通総研執筆者の聞き込み

(2) 宅配リターナブル

リターナブル化の最大ポイントは、「パッケージ」と「容器デポジット」である。種々の仕様のプラダン情報を収集している（前回は5月25日IBMさん）。

- ① ビール容器リサイクルフローでの容器保証金・取扱い手数料の現状を聞き込み（サッポロビールさん）
- ② 6月22日 : (株)アパックス（トヨタのリサイクルプラダン）聞き込み（前回は5月25日の日本IBMさん）

以上